

スターチスの常温育苗に適した育苗期間

1. はじめに

スターチス・シヌアータ（以下、スターチス）は、必要量の低温に遭遇すると抽だいし開花に到りますが、低温遭遇後に高温下におかれると脱春化し開花が遅延するといわれています。このため、育苗期が夏季にあたる本県では、脱春化を回避させるために冷房育苗を行っていますが、電気料金等の高騰に伴い育苗コストが増大しています。一方で近年はほとんどの栽培品種が培養苗で、培養時の温度や低温処理方法が確立されつつあり、定植後に脱春化する例が少なくなっています。

そこで、当センターではスターチスの需要期の切り花本数を確保しつつ、冷房育苗期間を大幅に短縮できる、常温下での育苗（以下、常温育苗）技術の開発に取り組んでおり、これまでに常温育苗の育苗資材は固化培地（エクセルキューブやすいすいポット）が有望であることを明らかにしています（前号参照）。

ここでは、固化培地を用いた常温育苗に適した育苗期間について検討した結果を紹介します。

2. 試験方法

供試材料：「紀州ファインバイオレット」288穴プラグ苗（低温処理済み）

育苗資材：①エクセルキューブ（京和グリーン(株)製）、容積：約150cc

②すいすいポット（垣本商事(株)製）、容積：約120cc

③7.5cmポリポット（(株)東海化成製）、容積：約220cc

育苗期間：14日、21日、28日

※参考として冷房育苗（昼温25℃/夜温15℃、7.5cmポリポットで28日育苗）区を設定

鉢上げ：供試材料を各育苗資材に2016年8月9日、8月16日、8月23日に鉢上げ

育苗条件：常温、底面給水（ただし、7.5cmポリポットは頭上かん水）、遮光率70%

耕種概要：定植：2016年9月6日、株間35cm、条間40cm、2条千鳥植え

ビニルハウス栽培、最低温度：2℃

3. 試験結果

(1) 常温育苗中の培土温度

図1に示すとおり、7:00～12:00の時間帯は育苗資材にかかわらず同程度で推移しましたが、13:00以降はエクセルキューブやすいすいポットが7.5cmポリポットに比べ1～3℃低く推移しました。また、夜間は7.5cmポリポットでは温室内の気温とほぼ同程度で推移しました。

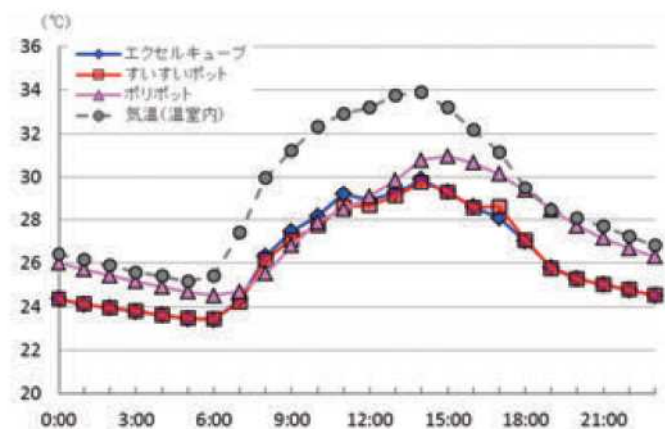


図1 常温育苗中の育苗資材の培土温度の推移
注)育苗期間28日の平均値

(2) 定植時の苗質

株の大きさは、育苗資材の培土の容積に比例して7.5cmポリポット>エクセルキューブ>すいすいポットとなりました(図2)。また、育苗期間が短くなるほど葉数や根量が少なくなる傾向がみられました。育苗期間中の抽だい本数は、育苗資材にかかわらず28日が有意に多くなりました(データ略)。



図2 育苗資材および育苗期間と定植時の苗質

(3) 切り花本数

春の彼岸までの切り花本数は、育苗資材が7.5cmポリポットでは少なく、育苗期間が14日では育苗資材にかかわらず少なくなる傾向がみられました。また、エクセルキューブやすいすいポットでは育苗期間にかかわらず冷房育苗するよりも切り花本数が多くなり、すいすいポットでは育苗期間が21日、エクセルキューブや7.5cmポリポットでは28日が最も多くなりました(図3)。

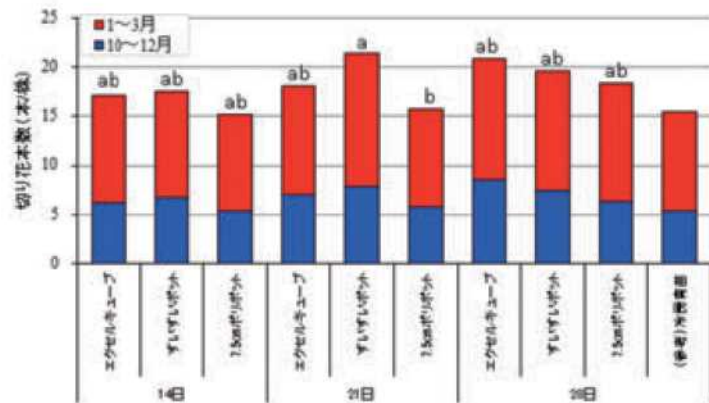


図3 育苗資材および育苗期間と切り花本数

注) 調査期間:2016年10月31日~2017年3月21日

図中の異なる文字間にはTukeyの多重比較により5%水準で有意差あり(n=12)

4. まとめ

以上のことから、常温育苗における育苗期間は、すいすいポットでは21日、エクセルキューブや7.5cmポリポットでは28日が適していることが示唆されました。すいすいポットは、育苗期間を短縮できることに加え、鉢上げ前の準備(培土の充填や給水)が不要で、プラグ苗の大きさに適した穴があいているため移植しやすく、労力を軽減できることから常温育苗の育苗資材として最も有望であると考えられました。

本年度は、すいすいポットを用いた常温育苗における本県主要品種の適応性を調査しているところであり、スターチスの常温育苗の実用性を検証したいと考えています。

(園芸部 古屋 拳幸)